

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【リンパ浮腫】

英 Lymphedema

リンパ浮腫は、何らかの理由でリンパ管内に回収されなかった、アルブミンなどの蛋白を高濃度に含んだ体液が間質に貯留したものである。様々な理由で生じる、いわゆる浮腫（水分の貯留）とは異なる病態であることをまず認識し、適切に鑑別診断する必要がある。

リンパ浮腫は原発性（一次性）と続発性（二次性）に大別される。国内のリンパ浮腫人口の大半を占める続発性リンパ浮腫のうち最も多くみられるのは、腋窩手術（センチネルリンパ節生検、腋窩郭清を含む）や術後照射、タキサン系抗がん薬など種々の癌治療に伴うリンパ浮腫である。主な癌の種類は、乳癌、婦人科癌、前立腺癌、悪性黒色腫、下部泌尿器系癌、直腸癌などが挙げられる。

リンパ浮腫の臨床上の特徴的な所見症状からリンパ浮腫を疑われた場合には、血液検査や画像診断を行い、全身性浮腫をきたす疾患（心不全、腎不全、肝機能障害など）との鑑別や局所性浮腫である深部静脈血栓症を除外して鑑別診断を行うことが一般的である。

リンパ浮腫は発症すれば完治が困難である一方、適切なリスク管理は有効な発症抑止となることが明らかである。

リンパ浮腫の治療のうち、よく行われる複合的治療は、リンパ経路に生じた領域的なうっ滞を解消することによって、組織間隙に貯留する体液をリンパ管に回収することを目的とするものである。リンパ浮腫はいったん発症すれば完治することは非常に困難であるため、継続的な治療と定期的な経過観察による増悪の回避が必須である。

【参考】

日本リンパ浮腫学会；2024年版リンパ浮腫診療ガイドライン。金原出版。

辻 哲也；特集がん患者支援とがんサバイバーの QOL。リンパ浮腫の取り扱い。産科と婦人科 2013；2：172-181。

がんサバイバーシップ <https://survivorship.jp/>

【関連学会など】

リンパ浮腫治療学会

（国立病院機構東京医療センター リハビリテーション科 竹田恵利子）

本誌 178 p に記載